

上下水道部 部長マニフェスト

私の思い

上下水道部長 諏訪 幸広



【水道事業】

水道事業を取り巻く情勢は、少子高齢化、節水意識の向上などから使用水量は年々減少し、それに伴い収益も減少しています。限られた財源を効果的に使用し、安全で良質な水を安定的、効率的に供給するため、「柏原市水道ビジョン」の基本理念である「安心・安定な水をみらいにつなぐ」に基づき管路、施設の更新・耐震化に取り組み、災害に強いライフラインの構築に努めてまいります。

【下水道事業】

汚水整備につきましては、昭和61年度からの「公共下水道整備第1次五箇年計画」を初年度として計画的に整備を進めております。

現在、「公共下水道整備第6次五箇年計画」による整備を進めており、平成25年度末の人口普及率は83.4%を達成しました。今後は平成27年度末の人口普及率85%を目指し整備を行うとともに、水洗化推進員による下水道への接続（水洗化）の向上を進めてまいります。

雨水整備につきましては、現在稼働中の雨水ポンプ場が供用開始後30～50年経過し、施設の老朽化が進んでおります。そのため施設の老朽化対策を見据えた平成28年度からの「公共下水道整備第7次五箇年計画」の検討を進めてまいります。

また、更なる経営基盤の強化のため平成26年度からは、下水道事業に地方公営企業法を適用し経営内容の明確化を図るとともに、経費削減を行い、水洗化の促進、下水道使用料の改定など受益者負担の適正化と財源の確保も図ってまいります。これからも将来に渡り安定した下水道サービスの提供を実現するため職員一丸となって取り組んでまいります。

重点課題

- ① 水道管路の効率的な更新、耐震化及び施設の統廃合の推進
- ② 計画的な汚水整備の推進
- ③ 市町村設置型の浄化槽整備推進事業による生活排水対策の推進
- ④ 下水道事業における経営基盤の強化

部の施策概要

【水道事業】

安全で良質な水を安定的、効率的に供給するため、耐震化対策、老朽化対策、危機管理対策を行います。

【下水道事業】

平成23年度からの「公共下水道整備第6次五箇年計画」による整備を進めており、平成25年度末の人口普及率は83.4%を達成しました。今後は平成27年度末の人口普及率85%を目指し整備を行うとともに、水洗化推進員による水洗化の向上を図ってまいります。

また、平成25年7月から公共下水道の計画区域外において、市が浄化槽の設置と管理を行う「浄化槽整備推進事業」を進めており、個人設置型と併せて生活環境の改善と公共用水域の水質保全に取り組んでおります。

そして、平成26年度からは下水道事業に地方公営企業法を適用し経営内容の明確化を図るとともに、慢性的な資金不足解消に向け、経費の削減及び収入の確保に努めます。

重点課題 ①

水道管路の効率的な更新、耐震化及び施設の統廃合の推進

戦略課題の目標

災害時の被害の拡大を抑えるよう施設・管路の更新・耐震化を図り減災を目指すとともに、施設の統廃合を進め、効率の良い水道システムの構築に努めてまいります。

施策推進上の目標

- ・老朽化した水道管の更新を下水道工事等と連携し効果的・効率的に行います。
- ・14箇所ある配水池のうち、廃止予定の4箇所のひとつである高井田配水池の平成28年度廃止に向け配水管整備事業に着手します。
- ・円明受水ルートへのバックアップができるよう今町受水場の配水能力を向上させます。

アウトプット

- ・高井田配水池の廃止に向け、今年度は高井田地区と高井田高地区の2箇所の配水区域を統合するため連絡管の整備を進めるなど、約3kmの水道管の更新・整備を耐震管で行います。
- ・今町受水場にポンプを1台増設します。

アウトカム

- ・水道管路延長約257kmのうち34%にあたる約88kmが耐震化されます。
- ・円明受水ルートの緊急時に今町受水場の配水能力が向上し、柏原地区の配水機能の安定性が図れます。

計画的な汚水整備の推進

戦略課題の目標

「公共下水道整備第6次五箇年計画」の目標である平成27年度末の人口普及率85%を達成することにより、生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図ります。

施策推進上の目標

平成26年度も計画的に汚水整備を進め、人口普及率84%を目指します。

アウトプット

計画的に汚水整備を行うとともに、水洗化推進員による水洗化の向上を図ります。なお、平成26年度において約9ヘクタールの整備を行うことにより、計画面積967ヘクタールのうち整備済み面積は654ヘクタールとなります。

アウトカム

生活環境の改善と公共用水域の水質保全が図れます。

重点課題 ③

市町村設置型の浄化槽整備推進事業による生活排水対策の推進

戦略課題の目標

平成 25 年 7 月から平成 35 年度までの 10 年計画において、おおむね 300 基の浄化槽の設置及び維持管理を行い、生活排水対策を進めます。

施策推進上の目標

平成 25 年度に設置した 20 基の浄化槽の適正な維持管理を行うとともに、平成 26 年度では 30 基以上の浄化槽の設置を目標とします。

アウトプット

平成 26 年度は 30 基以上の浄化槽の設置を進めます。

アウトカム

浄化槽の計画的な整備を進めることで、生活環境の改善と公共用水域の水質保全が図れます。

下水道事業における経営基盤の強化

戦略課題の目標

独立採算性の向上と受益者負担の適正化を進め、公営企業として本来あるべき事業運営を行うことで、将来に渡り持続可能な、安定した下水道サービスを提供し、市民の皆さまの快適な生活環境の確保を図ります。

施策推進上の目標

水洗化の促進や下水道使用料の適正化による収益の増収を図るとともに、下水道事業会計が本年4月から企業会計方式へ移行したことにより、財務諸表等を活用した経営分析、資産の把握などを行い、更なる経営基盤の強化に努め今後の事業運営につなげます。

アウトプット

- ・未水洗化世帯への訪問（約2500世帯／年間）を行い、下水道への接続をお願いし、新たに約630世帯の水洗化を進め、平成26年度末の水洗化世帯数、約22,720世帯を目指します。
- ・平成26年10月から平均37.6%の下水道使用料の改定を実施します。

アウトカム

経営の健全化を進めるため、平成26年度では維持管理費などの下水道使用料の対象となる費用のうち、約80%を下水道使用料で賄うことを目指します。